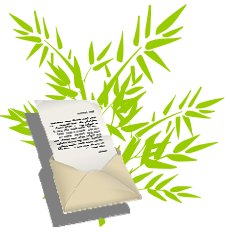


『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第69号(2010年12月29日)「中国市場動向2010年11月」



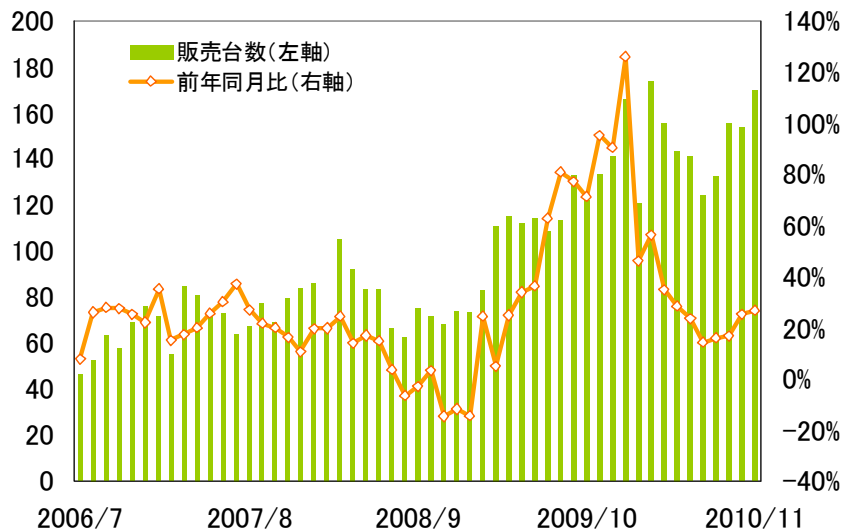
超自動車大国

12月9日、中国自動車工業協会の発表によると、2010年1月～11月の間、中国の新車販売台数が1639万台となり、2010年年間新車販売台数が1800万に達する見込みです。この勢いは昨年度の1350万台を大きく上回り、2年連続、世界一の座を維持するだけでなく、2000年のアメリカの1740万台という記録を更新し、一国の年間販売台数としても史上最高となる見込みです。2000年においては中国の自動車新車販売台数はわずか208万台でしたので、10年間で約9倍となる驚異的な伸び率となりました。

自動車販売においてこのような高成長が達成できたのは、経済が発展し、人々の生活レベルが大きく上昇したことが一つ重要な背景ですが、さらに政府による様々な自動車購入意欲を高めるための政策も重要な要素であったと考えられます。2009年、都市部において自動車買換えの補助金制度を設けられたことにより、都市部の需要が刺激されました。さらに、農村部において、「汽車下郷」という新車購入時に補助金が出される政策を実施し、今まで「マイカー」と無縁だった農村部の人に自動車を購入するきっかけが与えられました。「汽車下郷」の最初の年間予算が50億元(約650億円)でしたが、実際2010年1月～9月だけで80億元(約1040億円)が使われ、対象となった販売台数は208万台にも上りました。

(万台)

月間中国自動車新車販売台数の推移



出所: 中国自動車工業協会



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート

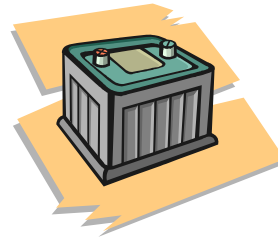


次のステージへ

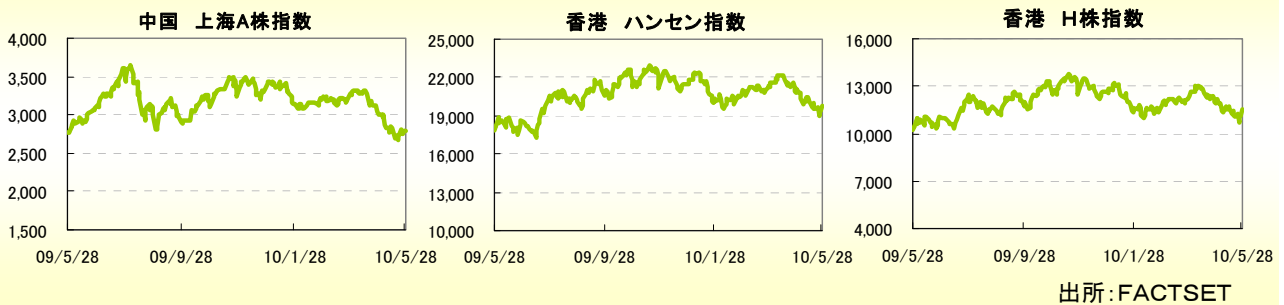
中国第12次5カ年計画(2011年～2015年)において、自動車産業の5カ年計画の草案が織り込まれています。草案の中で、「自動車大国」から「自動車強国」への転換が強調されています。

その「自動車強国」とは生産や販売台数の世界一を維持することではなく、次世代車である新エネルギー車で世界トップレベルになることです。実際、2015年までに新エネルギー自動車の年間販売台数を100万台に乘せることを、明確な目標として、次の5カ年計画草案の中で明記しています。

中国ではすでに新エネルギー自動車を購入した場合に補助金を支給する政策が始まっています。上海、シンセンなどの主要都市において、EV(電気自動車)が6万元(約78万円)、HV(ハイブリッド車)が5万元(約65万円)の補助金が支給され、新エネルギー車の市場を一気に拡大させる狙いです(都市によって補助金が若干前後する場合もある)。2015年まで、中国の真の成長力が問われる5年となるようです。



《主要株価推移》(各市場の直近1年間)



(編集後記) もし2000年から2010年の自動車販売の平均成長率が維持できれば、2015年には5300万台の年間販売台数が達成することになります。2009年の3倍以上となります。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。